



より良い社会をどう実現するか

経済学部 経済学科

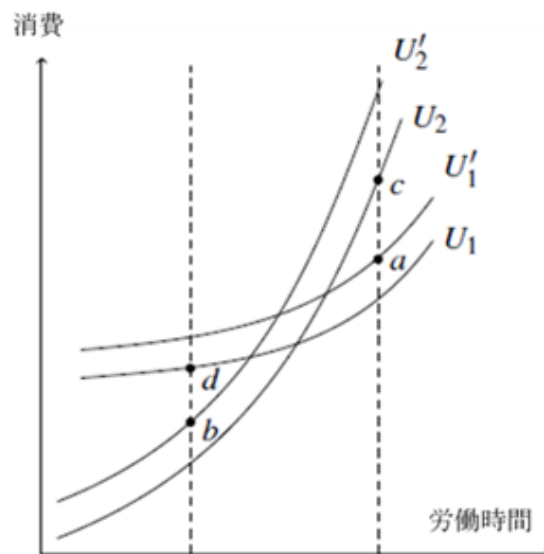
准教授 松井 潤

研究シーズの概要

経済学は、どうすれば人々の生活をより良くすることができるかを考える学問です。多くの異なる人々によって構成される社会にとって、何をもって「良い」ことだと判断できるでしょうか。例えば、不公平な社会に比べて、公平な社会が望ましいと考えられます。それでは、具体的にどのような状況であれば「公平」といえるでしょうか。ここでは、二つの原理をあげます。一つ目は、家庭環境など境遇の差をなくすべきとする原理です（原理1）。二つ目は、同じだけ努力したのであれば、同じだけ消費できるようにすべきとする原理です（原理2）。以上二つの原理について賛否はあるでしょうが、公平なより良い社会を目指す目標として一定の妥当性をもつとはいえるでしょう。ところが、これら二つの目標は一般に両立させることができません。つまり、同時に達成することができない目標です。これは右下の図を用いて示すことができます。

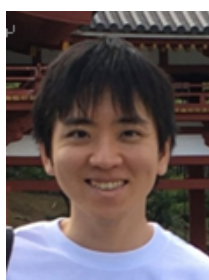
横軸に労働時間、縦軸に消費をとったときのグラフが4つ描かれています。 U_1 という曲線は、ある稼働能力をもつ人が、働けば働くほど多く消費することができる関係を示します。 U'_1 は同じ能力の人ですが、境遇（遺産など）が恵まれているため、同じ時間働いた場合でもより多くを消費することができます。 U_2 と U'_2 についても同様です。次に、点aとcに着目します。これらの点で表される人たちは、同じ時間働いた（努力した）にもかかわらず、その人たちがもつ能力や境遇の差によって異なる消費となっています。点bとdについても同様です。さて、上記の原理1によれば、境遇の差をなくすために、 U_1 と U'_1 の差および U_2 と U'_2 の差を縮めるための政策が要求されます。また原理2によれば、同じ努力（労働時間）ならば同じ消費をできるようにすべきなので、点aとcの差および点bとdの差を縮めるための（所得再分配）政策が要求されます。しかし、この図を用いて丁寧に分析すればわかるように、これらの政策を同時に実行することは不可能です。したがって、二つの目標は両立できません。

このように、複数の目標を同時に実現するには困難が生じる場合があります。そのため、社会にとって「良い」とは何か、それらは両立可能かを厳密に分析し、政策対応のあり方を検討する必要があります。



研究者プロフィール

松井 潤 / マツイ ジュン



メールアドレス matsui.jun@kagawa-u.ac.jp
 所属学部等 経済学部 経済学科
 職位 准教授
 学位 博士（経済学）
 研究キーワード 不平等、貧困、分配的正義

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで

問い合わせ番号：EC-25-001

直通電話番号：087-832-1672

メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp